## O歳児 <



## 6か月頃~9か月頃 >

## せんせい だいすき

### ~安定した関係の中で、意欲が芽生える~

### <これまでの経過>

4月から入所した3名(A児8か月、B児、C児9か月)のクラスで、担任は1名である。入所当初はよく泣いていたが、抱っこやおんぶなどで保育者が十分に関わり、気持ちを受け止め、優しく言葉をかけていくことで、少しずつ愛着関係を築いてきた。入所から2か月が過ぎ、担任がそばにいることで安心し、次第に周囲のものに興味をもち、何だろう?と手を伸ばし、自分で触って試したいという意欲が見られるようになってきた。

### <本活動のねらい>

- ・保育者との安定した関係の中で、安心して過ごす。
- ・玩具に興味をもち、触れたり、手に取って試したりしてみたいという気持ちをもつ。

### <本活動での教育的意図>

- ・保育者との愛着関係を築いていくことで、安心して過ごせるようにする。
- ・安心できる保育者が応答的に関わることで、周りの物に興味をもち、触ってみたいという気持ちがも てるようにする。

### 子どもと保育者の姿 保 - 保育者 効児期の終わりまでに育ってほしい姿

視点 子どもに育てたいこと教育的意図をもった働きかけ

〇朝のおやつ後、子どもたちは保育者と一緒に過ごしている。

- 保 「<u>あっちに遊びに行こうね」と声をかけ</u>、少し離れた遊 びのスペースへ移動する。
- A 児保育者がそばを離れる姿を見て不安がり、ずりばいで泣きながら保育者の方に向かって移動しようとする。
- <u>保</u>「<u>大丈夫、ここにいるよ」と言いながら</u>、A児のそばに 戻る。
- |A 児||保育者の姿を見て、ずりばいをやめて泣き止み、一人で | 座る。
- | 保 | 「Aちゃんも行こうね」と<u>A児に向かって両手を差しの</u>|
  | べる。
- A 児両手を前に出して、抱かれようとする。
- 保A児を抱き上げ、遊ぶスペースへ行く。
- | 保 | 「おもちゃがいっぱいあるね」と話しかけながら、A児 | を保育者の膝の前に座らせる。
- 保 「<u>どれにしようかな?」と色鮮やかな積み木をA児の前</u> に並べる。

知言葉がけや先に保育者が行動する ことで、<u>言葉と行動が一致する</u>よ うにしていく。

- 一次でである。一次である。一次である。一次できる。</li
- 知子どもに両手を差しのべて受け止めようとすることで、子どもが自分から「抱っこして」の意思表示ができるようにする。
- 知色鮮やかな積み木を子どもの手の 届く所に並べることで、<u>興味を示し、自分で手に触れたいという意</u> <u>欲がもてる</u>ようにする。

- A 児後ろを振り向いて、保育者がいることを確認し、「あーうー」と発声しながら、玩具に手を伸ばして指でつかみ、 じっと見たり、反対の手に持ち替えたり、なめたりする。 健康な心と体、自立心、思考力の芽生え等
- 〇保育者はA児に応答的に関わりながら、少し離れた所にいる B児の方にも目を向ける。
- 图 児保育者がそばにいないことに気づき、腹ばいの姿勢で左右に方向転換しながら、保育者を探す。見つけると保育者を目指してずりばいで移動する。
- 保 「Bちゃん、ここよ」と声をかける。
- B 児保育者のそばまで来ると、保育者の膝に両手を乗せる。
- 保 B児を抱き上げて、目を合わせて「Bちゃん、来たね~、 ずりずり、上手だったね」と声をかけながら微笑みかけ、 ぎゅっと抱きしめる。
- B 児嬉しそうににっこり笑う。

健康な心と体、自立心、思考力の芽生え等

- 体子どもの発達や状態に合わせ、いろいろな環境を用意することで、 指で玩具をつかんだり、持ち替え たりする経験ができるようにする。
- 夢すりばいで保育者のそばまで来られたことを、抱きしめたり言葉で伝えたりして温かく受け止めることで安心感や満足感がもてるようにする。

### 【考察】

・入所当初は不安感が強く、よく泣いていたが、保育者が抱っこやおんぶをして触れ合いを多くもち、優しく言葉をかけることで、担任との信頼関係を築き、安心して保育所で過ごせるようになった。そのことが基盤となり、睡眠や食事などの生活リズムが安定し、周囲の物への興味や遊びへの意欲につながってきている。また、保育者が子どもの表情や動きから子どもの気持ちを理解し、愛情をもって応答的に関わることで、人への信頼感が育ってきている。何か行動するときには保育者が「~しようね」と話しかけてから一緒に行動し、丁寧に言葉をかけることで、子どもの言葉の理解や発語への意欲につながる。保育者が「上手だったね」とほめながら抱きしめることで、子どもが喜びを感じ、自身への肯定感をもつことになると感じた。

### (健康な心と体、自立心、言葉による伝え合い等)

・担任との愛着関係ができ始めると、保育者が抱っこをしたり、担任の膝の上に座らせたりし、玩具を見せながら、一緒に関わって遊ぶことで、子どもが次第に玩具に興味を示し、手を伸ばしてつかむようになってきた。また、保育者が見守っていると、少し離れた所にある玩具にも興味をもち、寝返りやずりばいで移動して、玩具を手に取るようになってきた。このように保育者は、いろいろな物に興味、関心を広げていくことができるよう働きかけていく必要がある。

(健康な心と体、自立心、思考力の芽生え等)

### 今後に向けて

・今後ますます探索活動が盛んになり、行動範囲が広がっていくことが予想できる。安全面や衛生面等に留意し、子どもの発達を把握しながら、その時期に応じたいろいろな遊びを経験させ、様々な環境と触れ合っていくことができるよう意識して保育していく必要性がある。

### ○歳児 く



## 9か月頃~12か月頃 >

## いないいないばあっ! みぃつけた

~周りの環境に興味・関心をもち、自分でやってみようとする~

### <これまでの経過>

4月から入所した3名(A児12か月、B児10か月、C児9か月)のクラスで担任は1名である。A児はつかまり立ちから数歩歩く姿があり、B・C児は、腹ばいや寝返りが中心で、ずりばいで移動する姿が見られるようになってきた。入所後3か月経ち、担任との関係は安定し、後追いして泣く姿も見られる。一人ひとりの生活リズムで過ごしているが、同じ玩具に興味をもつ点は似ており、3人が機嫌のよいときは、ボール等の玩具を使って、同じ場所で遊ぶようになってきた。

### <本活動のねらい>

- ・保育者との安定した関わりを基盤に、周りの大人や友達に興味をもつ。
- ・保育者がしていることに興味をもち、自分でやってみようとする。



### <本活動での教育的意図>

- ・身近にいる大人や他児の存在を知らせていくことで、周りの環境に興味・関心がもてるようにする。
- ・保育者が先回りせず、指さし等子どもからの要求を待つことで、意思や要求がより高まるようにする。

#### 

視点 子どもに育てたいこと 教育的意図をもった働きかけ

### 〇保育者が室内での遊びへ誘う

- | A 児| うつ伏せで、好きな玩具で機嫌良く遊ぶ中、保育者の 顔を見て「あぁ、あぁ」と声を発する。
- 保 子どもと同じ玩具を手に持って見せながら「いないいないばあっ」と声をかける。
- A 児「ばあっ」の声かけに合わせて体を上下させて喜ぶ。
- 保欠は手で顔を覆って再度「ばあっ」と声をかける。
- B 児保育者の「ばあっ」の声に反応し、そばに寄って来る。
- C 児保育者の方を向こうと座ったまま体をねじる。
- 保 「B ちゃん C ちゃんもする?」「おいで」と声をかけ、3 人と向き合い「いないいないばあっ」をする。
- B 児保育者の真似をして「ばあっ」と言葉を発する。
- A・C児うれしそうな声を上げて喜んでいる。 豊かな感性と表現等
- ○<u>保育者はレースの布を準備し保育者が頭に被って「いないい</u> <u>ないばあっ」をして見せる</u>。
- 子保育者の言葉と同時に手を伸ばし、布に触れようとする。

知子どもの発語や表情、自己表現を 受け止め、子どもの自発的な活動を 大切にしながら保育者がして見せ るなど、一緒に関わって遊ぶ。

知興味のある物が見えたり隠れたり する楽しさを伝え、<u>次の展開に期</u> 待がもてるようにする。

知布を取り払うことで興味がある物が見えることを知らせ、<u>手を伸ばして触れたいという意欲や好奇心を育む</u>ようにする。

- 保 再度保育者が布を被り「いないいないばあっ」と言う。
- B 児保育者の布を取り「ばあっ!」と言葉を発する。
- A・C児手を伸ばし「あー」と言いながら体を揺らす。
- 保 「<u>次はCちゃん、いくよー」「いないいない」と子どもの</u> 頭に布を被せる。
- A 児布を両手で引っ張り「ばあっ」と言うように口をあける。
- □ 児保育者の顔を見ながら、期待して待っている様子が見られる。□ 思考力の芽生え等
- 保 「じゃあ Bちゃんもするよ」
- C 児保育者にかけてもらった布を手で引っ張って外し、にこっと笑う。
- 保 「上手、上手 ばあっだね」と楽しさを言葉にする。
- B 児一緒に「ばあっ」と言う。
- A 児体を揺らし楽しんでいる。

豊かな感性と表現等

- 保 「C ちゃんまたする?」と布を被せる。
- 〇そばで見ている A 児が手を伸ばし C 児の布を引っ張り「ばあっ」と C 児の顔を見る。 C 児も布に手を伸ばし体を上下させて喜んでいる様子が見られる。 豊かな感性と表現等

- 体子どもの扱いやすい素材と大きさの布を使い、<u>つまむ・引っ張る等、</u> 手、指を使う遊びに誘う。
- 個透ける素材や柔らかい感触のレースの布を使うことで、子どもが安心して同じ遊びが繰り返し楽しめ、<u>もっとやって欲しいという気持ち</u>がもてるようにする。
- 保育者は応答的に関わることで、 楽しいという気持ちに共感する。
- 保育者と楽しんでいる遊びを子ど も同士でもできるよう投げかけて いくことで、他児の存在に気付け るようにする。

### 【考察】

- ・入所後3か月ではあるが、保育者と信頼関係を築き、安心して過ごせるようになった。保育者の働きかけに安心して応える姿があり、保育者と一緒に遊ぶことで、いろいろな意欲へと繋がっている。普段から、保育者が表情豊かに応答的に言葉をかけるなど丁寧に関わろうとすることで、積み重ねた信頼関係をもとに、子どもたちは初めての活動でも興味を示すようになってきた。また、対象物を、手で隠す・布で隠す・子ども自身が隠れる等、遊びを次々と発展させていくことで、子どもが自分でやりたい・触りたい・引っ張ってみたいという意欲が高まって行動し、見つけた時の満足感にもつながっている。

  (思考力の芽生え等)
- ・「いないいないばあっ」という、ゆったりした心地良い言葉がけと共に遊びが展開するので、子ども たちも動作と音がつながりやすく、対象物が見えるタイミングで「ばあっ」と発声して、共感するこ とができた。保育者を中心にして身近な友達と、同じ遊びを共有し楽しさを共感することで、他児の 存在も意識できるようになり、自分から関わろうとする姿も見られた。

(豊かな感性と表現、協同性等)

### 今後に向けて

・今後、体の成長発達も進み、はいはいや歩行が始まると、もっと探索活動に広がりが見られるようになってくると思うが、保育者の応答的な関わり、育んだ信頼関係をもとにすることで、初めて経験する活動も安心感をもって意欲的に取り組めると感じた。その際には、子どものサインを見逃さず、子どもの気持ちに寄り添いタイミングよく関わることが、遊びを広げていくうえで大切なことだと思う。

## ○歳児 <



## 1歳頃~1歳3か月頃 >

## なにがあるかな?やってみよう!

### ~自分の好きな遊びを見つけ、やってみようとする~

### くこれまでの経過>

4月から入園した0歳児5名(1歳3か月2名、1歳2か月2名、1歳1名)のクラスで、担任は2名である。保育者との関わりの中で、少しずつ園生活にも慣れ、笑顔も見られるようになり、発語も増えてきている。

身近な物に興味、関心をもち、探索活動を十分に楽しめるように、子どもが自分で好きな玩具を見つけ、取り出せるような環境を工夫している。子どもが自分で玩具を取りに来たときには「見つけたね」「取れたね」と声をかけ、一緒に遊ぶようにしている。

泣いている子どもには、抱っこをしたり、わらべうたを歌ったりして触れ合い、落ち着いたら、「これ何かな?」「こんなのあるよ」と玩具に興味がもてるよう言葉をかけ、関わっている。

### <本活動のねらい>

- ・保育者との安心・安定した環境の中で、自分の好きな遊びを楽しむ。
- ・手、指を使った遊びに興味をもち、自分でやってみようとする。

### <本活動での教育的意図>

- ・安心できる保育者と一緒に遊びながら、興味をもち、好きな遊びを楽しむことができるようにする。
- ・手、指を使った遊びを楽しめるようなしかけや工夫をすることで、遊びへの興味や関心を広げ、やってみたいという意欲の芽生えを育んでいくようにする。

#### 

視点 <u>子どもに育てたいこと</u> 教育的意図をもった働きかけ

O朝のおやつが終わり、マットの上に座る。

- A 児ガラガラを片手に持ち、振って、音が鳴るのを楽しんだり、玩具が置いてあるロッカーのところに行って、気になる玩具を触ったりしている。やがて、箱に入ったフェルトのマスコットに興味を示す。
- 保
   フェルトのマスコットが入った箱をロッカーから出し、

   A児の前に置いて、取りやすいようにし、箱から1つ取り「どうぞ」とA児に渡す。
- 月 別 それを手に取り、握ったり振ったりしている。その後マスコットをその場に置くと、次は自ら、箱に手を入れてマスコットを取り出す。思考力の芽生え等
- 保 A児が遊んでいる姿を見守りながら、「<u>取れたね」「うれ</u> しいね」 などとタイミングよく声をかけ、自分で取れた

- <u>「付きな玩具や遊びを見つ</u> <u>けたり、興味をもった玩具で遊ん</u> <u>だりできる</u>ように、スペースを準 備する。
- 知子どもが手に取り、つかみやすい ようなマスコットを見せることで、 子どもの<u>興味を引き出し好奇心を</u> もたせるようにする。
- 一さきたことについて言葉をかけ、一緒に喜び、遊ぶことで、やってみ

ことを一緒に喜び合う。

- |A 児||保育者の言葉を聞き、答えるように笑顔を見せ、「あ!」 「あっ」など声を出す。
- 保 A児の手に合うような容器を用意し、「ここに入れてみよう」と誘いながら、<u>保育者がいくつかマスコットを入れ</u>る。
- A 児興味を示し、じっと見つめる。
- | 保 | 容器をA児に渡し、「<u>ここにも入るかな?」「入れてみよ</u> | う」と声をかける。
- A 児容器を持ち、まずはじっくりと容器を観察している。それから保育者と同じようにマスコットを中に入れる。
- □ 保 A児の様子を見ながら「わぁ、入ったね、もっと入れる?」 と誘う。
- A 児次に入れるマスコットを探し、箱から取りだして入れる。
- OB児、A児や保育者の様子に興味をもち近づいてくる。
- 保 「Bちゃんもやってみる?」と声をかけ容器を渡し、「入れてみるね」と1つ保育者がマスコットを入れる。
- B 児マスコットをつかみ、容器に入れて入ると笑って喜ぶ。
- 保 「<u>Bちゃんも入ったね、よかったね</u>」 「おもしろいね」
- A・B児容器にマスコットをたくさん入れて遊ぶ。 いくつか入ると、ひっくり返して全部出したり、容器からマスコットをつかんで出したりして遊ぶ。繰り返し、 出し入れを楽しむ。隣同士に座り遊んでいる。

健康な心と体、思考力の芽生え等

- ようとする気持ちを引き出す。
- 知保育者が実際に遊びながら見せて いくことで、<u>保育者の動きを模倣し</u> ようとする気持ちを引き出す。
- 個子どもの指さしやできたことを認め、 応答していくことで、 <u>保育者と</u> のやり取りを楽しめるようにする。
- 知保育者がして見せるなど関わって 遊ぶことで、マスコットをつかん で、容器に入れるという遊びに発展 させていく。
- 個子どもの気持ちを受け止め共感することで、「<u>もっとやってみよう</u>」 という意欲につなげていく。
- 体繰り返し遊びを楽しませることで、<u>目と手の協応を養ったり、手、</u> 指の機能を高めたりすることができるようにする。

### 【考察】

- ・保育者が子どもの様子を見守り、安心して過ごせる環境を作ることで、子どもが自ら好きな遊びを見つけることにつながった。そして、子どもが興味を示している遊びに保育者が関わることで、子どもの「やってみたい」という気持ちを引き出すことができると感じた。さらに子どもの気付きや発見、できた喜びなどに共感し、代弁したり応答的に関わったりすることで、子どもの興味や関心が広がっていくと考える。 (自立心、思考力の芽生え、豊かな感性と表現等)
- ・手、指を使ってマスコットを出し入れする遊びを楽しむためには、じっくりと見て思ったところに手を伸ばし、つかんで離す必要がある。手足を自由に動かすためには、まずは体幹を安定させる必要があると感じた。また、子どもの自発的な活動を大切にしながら、保育者がしてみせるなど、一緒に関わって遊ぶ大切さも感じた。 (健康な心と体等)

### 今後に向けて

・一人ひとりの発達段階を踏まえ、道筋を描きながら、子どもの遊びを見守る必要があると感じる。玩具や遊びを提供するときも、〇歳児5名が同じ遊び方をするわけではないので、常に一人ひとりに応じた教育的意図をもった働きかけを考えるとともに、育みたい力を意識していく必要がある。

## O歳児 く



## 1歳頃~1歳3か月頃 >

## もぐもぐごっくん おいしいね!

### ~安定した保育者との関係の中で意欲的に食べる~

### くこれまでの経過>

4月から入所の0歳児3名(1歳、1歳3か月、1歳4か月)で担任は1名である。1歳児と同じ部屋で一緒に過ごしている。家庭での離乳食の進め方のペースはゆっくりで食べさせてもらっているようである。保育所でも入所当時は、給食やおやつがなかなか食べられず泣いていたが、少しずつ担任にも慣れ、安定した中で落ち着いて食べることができるようになってきている。

### <本活動のねらい>

・安定した保育者との関係の中で、こぼしながらも自分でコップを持って飲もうとしたり、食べようと したりする。

### <本活動での教育的意図>

・落ち着いた雰囲気の中で、安心できる人と一緒に食事をしながら、自分でやってみよう(食べてみよう・飲んでみよう)という気持ちがもてるようにする。

### 子どもと保育者の姿 保 - 保育者 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

視点 子どもに育てたいこと教育的意図をもった働きかけ

- 〇保育者が椅子に座った子どもたちの前でおやつの準備を始め る。
- A・B児保育者がエプロン等を着用する様子をじっと見ている。
- 保 1人ずつ顔を見て名前を呼びながらエプロンを配る。 また直接体に触れるなどして顔色、体調等を確認する。
- 保 A 児の名前を呼びながら「いただきます」の挨拶を一緒にする。保育者がA児のコップを持ち「どうぞ」とすすめながら一口お茶を飲むように促す。
- A 児ゴクッと一口飲む。
- 保 A 児と一緒にコップを持ち、保育者が手を添えながら、 「Aちゃんお茶飲むよ。ごくごくしようか」と声をかける。
- A 児コップを触るが飲もうとはせず、保育者を見つめる。
- 保 コップに手を添えながら口元まで一緒に運び、飲み始めたらそっと手を離し「上手に飲めたね、おいしいね」と言葉をかける。
- 〇保育者はおやつの蒸しパンを、A 児が食べやすいサイズに フォークで小さく切る。

- 徳座る場所を決めておくことで、毎回同じ場所に座る<u>安心感を味わえ</u>るようにする。
- 知保育者のエプロン等の着用を見せることで、<u>食事の時間ということが</u> 分かるようにする。
- |体||誤嚥の防止のため、食べる前に必ず水分を摂取するよう促す。
- 個一人ひとりの状況を把握し、個々に応じた言葉がけや励ましをすることで、自分でやってみようという意欲を引き出す。

- A 児蒸しパンを興味深く見つめた後、自分でつかもうとする。
- 保 「自分でつかめたね。お口に入れてみようか?」
- A 児蒸しパンを口に入れ、感触を確かめている。
- 保 「どう?おいしい?」

「もぐもぐしてみる?」と保育者が口を動かして見せる。

□ 日本の日本を見ながら、□を動かし食べ始める。そして回に手をのばして次々食べ始める。

### 健康な心と体、自立心等

- 保 自分で食べきることができるように、さりげなく援助しながら、「おいしいね」と声をかける。
- | 保 | 空っぽになったコップと皿を見せ、「おいしかったね。空 | っぽだね。ごちそうさまでした」とおやつが終わったことを伝える。
- 保 おしぼりで子どもの口をふき、目の前でおしぼりとエプロンをたたみ、子どもと一緒に「ごちそうさま」の挨拶をして終わる。

- 体保育者が口を動かして具体的に見せることで、咀嚼をイメージし、<u>食べる意欲</u>につながるようにする。
- 徳「おいしいね」と言葉をかけ、共 感することで、<u>自分で食べようとす</u> る意欲を引き出していく。
- 知コップの底を見せ、残りの量を知らせ「空っぽ」「おしまい」が分かるように伝える。
- 徳おいしかった気持ちを言葉にして 代弁し、満足感を味わえるようにする。

### 【考察】

- ・食事(給食・おやつ)は、子どもの生理的欲求を満たすことを保証するためにも、まずは大人との安定した信頼関係を築き、落ち着いた雰囲気の中、食事することが基本である。保育者が表情豊かに受容的かつ応答的に言葉をかけて、手本を示すことで、初めての経験も受け入れてやってみようという気持ちを引き出せることができると考える。 (自立心等)
- ・まずは、子どもが意欲をもてるように言葉をかけて、手を添えて自分で食べる経験を増やしていく。 うまく口に入ったときに共感し、受け止めていくことで次への意欲につなげていくことができた。

(健康な心と体、自立心等)

### 今後に向けて

・基本的な生活習慣の中でも特に食事に関しては、家庭と連携し進めていく必要がある。そこで保護者に保育所での姿を知らせたり、具体的な援助方法を伝えたりするなど、保護者と共に子どもの成長を 共通理解し、関わっていくことが大切だと考える。



## 1歳児 く



## 1歳3か月頃~1歳6か月頃 >

## てあそびたのしいな

### ~手遊びを楽しむことを通して感性と意欲を育てる~

### くこれまでの経過>

5月生まれから3月生まれまでと月齢差の大きい 12 名の集団で担任は2名である。持ち上がりではないが、新担任にも甘え、機嫌よく過ごしている。新入児においては、4月はよく泣いている姿が見られたが、その都度保育者がしっかりと受け止め、十分に触れ合い、気持ちに寄り添いながら関わってきたところ、だんだんと好きな玩具を見つけて遊び落ち着いて過ごす時間が多くなってきている。また、体操や手遊び、歌などを毎日繰り返していくことで、保育者の真似をして友達と一緒に手遊びをする楽しさが感じられるようになってきた。

(A児1歳4か月・B児1歳6か月・C児1歳3か月)

### <本活動のねらい>

- ・保育者と一緒に手をたたいたり、真似をしたりしながら一緒に手遊びをする楽しさを味わう。
- ・手遊びを通して体を揺らしたり、手を動かしたりする楽しさを味わう。

### <本活動での教育的意図>

- ・安心できる保育者と一緒に手遊びをする楽しさを共感し、一緒にしてみたいという気持ちを引き出せるようにする。
- ・子どもの興味や発達に応じた手遊びをすることで、体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにする。

視点 子どもに育てたいこと 教育的意図をもった働きかけ

### ○朝のおやつの時間に子どもが椅子に座る

保 「トントン アンパンマンする?」と話しかける。

A 児「うんうん」とうなずき、「パンマン」と言う。

言葉による伝え合い等

- 保 「アンパンマンしようね」「<u>C ちゃん、B ちゃんも一緒に</u> しようね」と誘いかける。
- 保 まだ自分ではなかなか手ぶりをすることが少ない C 児の そばで、子どもたちに見えるように手遊びを始める。手遊びをしながら、手ぶりをしている子どもと目を合わせて、「上手、上手」と声をかける。
- A 児笑顔ではりきって大きく手を動かす。
- B 児保育者に抱かれ、笑って見ている。
- C 児保育者をじーっと見ながらにこにこしている。
- 子 『アンパンマン』の手遊びが終わると、高月齢児が 『むすんでひらいて』の手ぶりをやり始める。

知・徳子どもの興味や発達に応じた手遊びを行うことで、一緒にしてみたいという気持ちを引き出す。

個子どもの表情やしぐさに応じて優しく笑顔で応えることで、<u>できる</u>喜びを感じられるようにする。



- 保 「『むすんでひらいて』も、する?」
- A 児「うんうん」とうなずき、手ぶりをする。
- 保 「A ちゃんもしたいのね。 C ちゃん、 B ちゃんもしようね。 みんなでしよう。」 と話しかけ、 『むすんでひらいて』 を歌い、 手遊びをする。
- A 児笑顔で大きく手を動かす。
- B 児 『飛行機ぶんぶん』の手遊びになると、保育者に抱かれ たまま、飛行機のしぐさをし、「ブーン」と言う。
- C 児手遊びの途中から両手をふり始める。

豊かな感性と表現等

保 「Aちゃんも上手~!」と声をかけ、他児の名前も呼び ながら褒めたり、手を添え一緒に動かしたりする。

○室内で好きな玩具を使って遊んでいるとき

- 保 子どもたちの様子を見守りながら、『むすんでひらいて』 を歌い始める。
- A 児保育者のそばに来て、腕を大きく動かして手ぶりをする。
- C 児保育者とA児のそばに来て、にこにこ笑って見ている。
  - 保「Cちゃんも一緒にしよう」と誘いかける。
- C 児うれしそうに両手をふり始める。
- 保 「AちゃんもCちゃんも上手ね~」と褒め、「もう1回する?」と声をかける。
- A 児「もっかい」と言って、両手をふる。
- 保子どもの気持ちに応え『むすんでひらいて』を歌う。
- A・C児一緒に両手をふって、笑っている。

知子どもの表情やしぐさから要求を 受け止め、言葉にして応じること で、<u>気持ちが表現できる</u>ようにす る。

知子どもの自発的な活動を大切にしながら、保育者がして見せるなど、 一緒に関わって遊ぶことで興味を もったり真似をしようとしたりす る気持ちを育てていく。

体保育中のいろいろな場面で、手遊びをする機会をもち、<u>体を揺らしたり、手を動かしたりする楽しさ</u>を伝える。

知子どもの表情から子どもの気持ちを理解し、代弁して言葉にすることで、自分の思いを伝えようとする気持ちにつながるようにする。

### 【考察】

- ・保育者との安定した関係の中で手遊びをすることで、楽しさを感じ、保育者の歌声を聞いて、真似を して一緒に歌おうとしたり、手ぶりをしたりすることができるようになってきた。また、給食やおや つの前に機会を捉えて、毎日繰り返したことで、自分から手遊びをしたい気持ちを伝えるようになっ てきた。 (言葉による伝え合い、豊かな感性と表現等)
- ・リズムやメロディに合わせて体を動かす楽しさは、保育者や友達と一緒に歌ったり手遊びをしたりすることで、育まれていく。また、保育者や友達が歌ったり、手遊びをしたりする姿を見て「自分もやってみたい」という意欲にもつながっていくと感じた。

(言葉による伝え合い、協同性、豊かな感性と表現等)

### 今後に向けて

・発達の時期や季節を考慮しながら、子どもの大好きな歌や手遊びを、意識的に取り入れていくことで、 歌を歌ったり、体を動かしたりすることが好きな子どもの姿へとつながっていくと感じる。

## 1歳児 <



## 1歳3か月頃~1歳6か月頃 >

## いっしょに よいしょ!

~保育者との安定した関係のもと、身の回りのことに興味をもつ~

### くこれまでの経過>

進級児3名、4月からの新入児14名の計17名の集団である。月齢差が大きく、新入児も多かったことから、一人ひとりに丁寧に関わることを意識してきたことで、少しずつ好きな遊びを楽しめるようになってきている。また、少しずつ身の回りのことにも興味が出てきており着脱等もやってみようとする姿が見られるようになってきた。新入児A児(1歳3か月)は、ようやく保育所生活にも慣れてきたところで、保育者に機嫌よく身の回りのことをしてもらっている。

### <本活動のねらい>

・安定した環境の中、衣服の着脱に興味をもち、保育者と一緒にやってみようとする。

### <本活動での教育的意図>

・着替えなど身の回りのことを保育者と一緒に楽しみながら行うことで、自分でもやってみようという 気持ちがもてるようにする。

### 子どもと保育者の姿 保・保育者 物児期の終わりまでに育ってほしい姿

視点 子どもに育てたいこと 教育的意図をもった働きかけ

- 〇所庭で遊んだ後、保育室に入室した際、保育者がA児の紙パンツが濡れていることを確認し、「おしっこ出てるね。パンツ替えようね」と言いながら新しい紙パンツを用意する。
- A 児保育者が紙パンツを用意するのをじっと見ている。
- <u>保</u> 向き合いながら「<u>脱ぐよ」とズボンと紙パンツを下ろす</u> ことを伝える。
- 保「ここ持っててね」と保育者の肩に手を置くよう促す。
- A 児肩に手をおき、促されて、片足を上げる、ズボンとパンツを脱ぐ。
- 保 | A児に、保育者の膝に敷いたタオルの上に座るよう伝える。また、膝に座ったA児に「足を通そうか」と言いながら紙パンツをA児の足元に持っていく。
- A 児紙パンツの方向に足をあげ、足を通すが、途中で足が引っかかって出てこない。
- 保「あれ、出てこないかな」
- A 児「でない」
- A 児足を動かしているうちに足が通る。
- A 児「でたあ」
  - 保 「出たあ!よかったね。じゃあ、こっちの足も通そうか?」 と反対の足を通すよう促す。

- 徳新しい紙パンツに着替えることを 伝えてから着脱を始めることで、安 心して着替えに向かえるようにす
- 知・徳脱ぐための方法を分かりやすく具体的に伝えることで、<u>やってみよ</u>うという気持ちを引き出す。

- 体子どもが足を通そうとすることを 見守り、<u>自分でやってみようとする</u> 気持ちを支える。
- できたという気持ちを言葉で伝え、 共感することにより、満足感や達成 感が味わえるようにする。

- A 児促されて反対の足も通そうとする。
- A 児「でた〜」
- | 保 | 「よかったね。<u>じゃあ今度は立ってくれる」と声をかけ、</u> | そっと体を支える。
- A 児保育者の言葉がけにより、喜んで立ち上がる。
- 保 「さぁ、一緒によいしょするよ」と言って紙パンツの前 の方を持つように促す。
- A 児パンツを持つが一旦は手を離す。
- 保 「あれ?難しかったかな?じゃあ、先生が一緒によいしょするね」と言い、「よいしょ」と紙パンツをあげる。
- A 児同じように「よいしょ!」と言う。
- 保 「<u>できたね。パンツ替えて気持ちいいね」と声をかける</u>。
- A 児笑顔で「うん」と言う。
- ○その後、保育者は「次はズボンね、じゃあ、もう一回ここ座 って」と保育者の膝に座るように促す。
- A 児「うん」と言いながらA児は膝の上に座る。同じように ズボンに足を通す行為を保育者と一緒に行うが、長ズボ ンなのでなかなか出てこない。
- | 保 | 「あんよ出てこないね。<u>よいしょして引っ張って」とズ</u> ボンを持つように促す。
- A 児「よいしょ・・・う~ん、う~ん」
- A 児ズボンの足先をひっぱってみるが足が出てこない。
- | 保 | 「ここ引っ張ってみようか」と言いながらズボンの太も | も部分を「よいしょ、よいしょ」と引っ張る。<u>足先が出</u> | <u>てきたときにタイミングを合わせて「ばあ!」と言う</u>。
- | A 児 「ばぁ!」と言いながら、うれしそうに保育者の顔を見る。 | 健康な心と体、自立心等
- 保「はいできあがり、よいしょ一緒にできたね」
- A 児こちらを向いて笑顔を見せる。

| 体子どもの腰を支えることにより<u>体</u> | <u>幹を維持し</u>立ち上がりやすくする。

個パンツを替えてきれいになったことを伝え、子どもが<u>心地よさを感じられる</u>ようにする。

- 歴足が出たときに「ばあ」という身近な遊びの表現を添えることで、楽しさを感じられるようにする。
- 付けてきたという達成感や満足感を共有することにより<br/>活動への意欲につなげていく。

#### 【考察】

- ・子どもたちは最初はできなくても、子どもの思いやペースを尊重した保育者の丁寧な関わりや、言葉がけを通して興味や関心をもち、試行錯誤を重ねることで、自分でできたときの達成感や心地よさを味わい、またやってみようという意欲が高まると考えられる。 (健康な心と体、自立心等)
- ・本活動は衣服の着脱が目的ではあるが、実際に子どもは何回も立ったり座ったりを繰り返しながら、 足を通そうと動かすことが、体幹を維持するなどの体の発達にもつながることではないかと考える。 (健康な心と体等)

### 今後に向けて

・衣類の着脱など生活習慣を身に付けていくためには、一人ひとりの子どもの状態を把握し、急がせることにならないよう、その子どもにとって適切な時期に適切な援助をしていくことが大事であると考える。

## 1歳児・



## 1歳6か月頃~1歳9か月頃 >

## しんぶんし、びりびりたのしいな!

### ~身近な素材で感触遊びを楽しむ~

### くこれまでの経過>

1歳月18名。全員が4月からの新入児である。入所時は全員が泣いて保育者を求める姿もあったが、少しずつ新しい環境に慣れ、笑顔も見られるようになってきた。担任の顔も認識できるようになり、一人ひとりに安心感が芽生え始めてきた。

安心できる環境のもと、いろいろな遊びを経験させることで、気持ちを表すことができるだろうと考え、発達を意識しながら感触遊びや運動遊びなど、工夫して提供してきた。今回は新聞紙を用意してみたが、出された新聞紙にとびつく子ども、どうして遊ぶのかわからない子ども等姿は様々であったが、遊んでいくうちに、保育者と関わりをもちながら個々に興味を示す姿が見られた。

### <本活動のねらい>

- ・安心できる環境の中で、思いを受け止めてもらいながら遊びを楽しむ。
- ・保育者と一緒に身近な素材(新聞紙)に触れ、感触を楽しむ。

### <本活動での教育的意図>

- ・安心できる保育者との関係や落ち着いた環境の中で、自分の思いを出し、受け止めてもらえる心地よ さを味わえるようにする。
- ・素材の出し方を工夫したり、遊び方を知らせたりすることで、いろいろな感触を楽しむなど、遊びへの興味関心につながるようにする。

子どもと保育者の姿	保 - 保育者	子 - 子ども
幼児期の終わり	までに育ってほ	しい姿

視点 子どもに育てたいこと教育的意図をもった働きかけ

- 〇朝のおやつの後、一人ひとりが好きな遊びを楽しんでいると きに、保育者が新聞紙を布に包んで持ってくる。
  - 保 「これ、なんだろう? (カサカサ)音もするね。」
  - 子保育者の周りに、興味をもった子どもが数人集まる。
  - 保 | 「あけてみる?」
  - <u>子</u>保育者の様子を見ながら、それぞれに、布を引っ張ったり、開いたりしている。
- A 児布を率先して引っ張っている。
- | 保 | 「<u>なかなかあかないね</u>」保育者も一緒に引っ張る。 | 「こっちかな、あっちかな、引っ張ってみよう」 | 「よいしょ!あいた!みんなあいたよ!」
- 子表情が変わり、中を覗き込む。

思考力の芽生え等

- 保「新聞紙だね。ほら」と子どもたちに渡す。
- A 児出てきた新聞紙を他の保育者に渡しに行く。「はい!」受け取った保育者に"ありがとう"と言われ、頭を下げ、

中身に興味をもたせ、見たい気持ちを引き出せるようにする。

知見えないものの音を聞かせるなど

- 知・徳子どもの気持ちや行動を言葉に していくことで、気持ちの共感や 言葉の獲得につなげていく。
- <u>徳</u>気持ちを受け止め、要求や欲求を 満たしていくことで<u>、満足感を味わ</u> えるようにする。

何度も往復して新聞紙を運ぶ。渡すたびに満足気な表情を 見せる。 豊かな感性と表現等

- 〇保育者が低月齢のB児に新聞紙を1枚ずつ渡したり、ちぎったりして遊ぶ姿を見せる。
- 保 「ビリビリっていったね」「Bちゃんもちぎってみる?」
- B 児うなずき、同じようにちぎってみようとする。
- A 児それを見て「あ!」・・・やって来て声を出す。
- 保 「Aちゃんも欲しいんやね。どうぞ」 1枚手渡す。
- |A 児||新聞紙を触りながらも、保育者とB児の関わりを気にしている。
- <u>A 児</u>その様子をじっと見ていたが、すぐにB児の紙を横から 取る。
- B 児びっくりした様子で、A児の顔を見て立ちつくす。
- 保 「Bちゃんびっくりした?はい!もう1枚あげるね」
- B 児すぐに受け取り、また新聞紙をちぎり始める。
- 保っての様子を見届け、A児と向かい合う。
- | 保 | 「そうか、Aちゃんもちぎってみたかったんだね。して | みようか?先生見ておくね! 」
- A 児うなずいて、B児の隣でちぎり始める。
- ○その後、保育者は新聞紙を使った遊びを展開する。 〈新聞紙トンネル〉
- A 児保育者が持つフープを引っ張ろうとする。
- 保 「Aちゃんも持ちたいの?」
- A 児うなずく。

自立心等

- 保 「よし!先生と一緒に持とうか」
- A 児うなずいて、保育者と一緒に持つ。
  - しばらく一緒に持っていると、満足したようでトンネル をくぐり始める。

- 知・徳子どもの気持ちを受け止め、伝 え方や方法を代弁しながら知らせ ていく。
- 知子どもの興味や関心を引き出せる よう十分な量を準備する。
- 知ちぎる音やちぎった形にも興味が もてるように、言葉に置き換えたり 見せたりしていく。
- 徳気持ちを読み取り、言葉にして代 弁していくことで<u>安心感をもたせ</u> 自分の気持ちを伝えることの心地 よさを味わえるようにする。
- 気持ちを読み取り、言葉にして代 弁していくことで<u>安心感や満足感</u>を味わえるようにする。

### 【考察】

・18 名全員に目を配り、一人ひとりの遊ぶ姿や感性、表現を見守り声をかけていく難しさを感じた。 同じ素材を使った遊びでも感じる思いや伝えたい気持ちは違っていることが分かり、一人ひとりへの 寄り添いや対応の必要性を感じる。受容的、応答的に関わってもらい思いを満たしてもらうことで、 安心できる場所、人間関係の基礎づくりにつながっていくのではないかと感じる。

### (豊かな感性と表現、自立心、思考力の芽生え等)

・新聞紙を使った遊びは、握ったり、ちぎったり、音を鳴らしたりなどいろいろ工夫することができる。 様々な感触を楽しみ、保育者が言葉にして共感することで、物への関心も高まっていくと思われる。

(思考力の芽生え、豊かな感性と表現等)

### 今後に向けて

・一人ひとりの発達を十分把握し、子どもたちが主体的に遊びに関われるように、保育者側が誘い掛けたり、子どもの様子を見守ったりしながらタイミングを合わせ、臨機応変に関わっていけるよう柔軟に対応していく必要があると考える。

## 1歳児 <



## 1歳6か月頃~1歳9か月頃 >

## エプロンどうぞ

### ~保育者との関わりを通して友達に関心をもつ~

### くこれまでの経過>

1歳月12名(新入月6名・進級月6名)のクラスである。進級月6名は、保育者のすることに興味があり、保育者が椅子を運ぼうとすると手伝おうとしたり、机の片付け場所を「ここ!」と示したりする姿が見られていた。

新入児A児は1歳7か月、入所から1か月近く経っても保育所生活に慣れることが難しく、自分の気持ちを出せなかったが、慣れ始めると、友達のしていることに興味をもち始め、じっと見るようになってきた。そして、自分もしてみたいと思うようになってきたようで、他児がエプロンを配っているときには真似をして、「〇〇ちゃんの~」と、言葉で言えるようになってきた。

### <本活動のねらい>

- ・思いを受け止めてもらうことで、安心して自分の気持ちを出そうとする。
- ・自分の思いや要求を、表情やしぐさで表現し、伝えようとする。

### <本活動での教育的意図>

- ・子どもの不安や要求に気が付き、十分に受け止め応えていくことで、安心して自分の気持ちを出せる ようにしていく。
- ・思いを代弁したり共感したりするなど応答的に関わることで、気持ちを受け止めていけるようにする。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿  教育的意	図をもった働きかけ
A 別 「OO ちゃんの…」と言いながら、マジックテープを外に、コカロのものでは、エクロの配うで、インでは、エクロの配うで、インでは、エクロの配うで、インでは、ロースのでは、エクロの配うで、インでは、ロースのでは、ロー	で、 <u>やってみようという</u> でていく。
<ul><li>B 児「Cちゃんの…!」</li><li>「保」「Cちゃんのやね。 Cちゃんは、どこかな? 渡して 知気持ちを表</li></ul>	₹現できるよう思いを代

あげて」とB児に渡す

- B 児C児が分からないのか、C児のエプロンを持ったまま、どうしたらいいのかしばらく考えている。
- A 児困っているB児に「あっちー!いたー!」とC児の方を 指さしする。

言葉による伝え合い、豊かな感性と表現等

- 保 「Aちゃんよく分かったね!」「Bちゃん渡して来てくれる?」
- B 児笑顔でC児にエプロンを渡しにいく。
  - 保 「Cちゃんよかったね」「Bちゃんありがとう」
- 〇保育者がまた次のエプロンを取り「これは誰のかな?」と聞くと、A児は笑顔ですぐに保育者のところに、エプロンを取りに来る。
- 子 自分のエプロンを友達からもらい、嬉しそうにしている。
- 保 「Aちゃん、上手にできたね。ありがとう」と伝える。
- A 児最後まで配り終え、自分のエプロンをつけると満足そうな表情で座る。

弁したり、共感したりするなど、応 答的に関わっていく。

- 個子どもの自発的な行動を大切に し、<u>楽しいという気持ちを共感す</u> る。
- 徳安心できる人と一緒にすることで、で、やってみたいという気持ちがもてるようにする。
- <u>徳</u>言葉にして伝えることで、できた という<u>満足感を味わえる</u>ようにす るとともに、またやりたいという気 持ちにつなげていく。

### 【考察】

・保育者が給食やおやつなど毎日の繰り返しの中でエプロンを配ることが、子どもの興味につながり、 子どもの配ってみたいという気持ちを引き出せた。また、その都度子どもの思いに共感したり、代 弁したりすることで、さらに「できた」という満足感を味わえることにつながった。楽しんで配る うちに自分の存在もアピールできるようになってきている。

(自立心、思考力の芽生え、言葉による伝え合い等)

・保育者に気持ちを受け止めてもらうことで、安心して自分が出せるようになり、自分の思いを伝えたり自分から進んでしようとするようになってきた。さらにこの手伝いを通して、他のことにも楽しんで参加し、誘われなくても自分から入ろうとするなど、子どもの自信につながり、安心して過ごしている姿が見られるようになってきた。

(自立心、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現等)

### 今後に向けて

・安心して自分を出せる環境の中、一緒に関わって遊んでいくことで、保育者との信頼関係も深くなっていき、いろいろな遊びへの意欲も引き出されると感じる。保育者との関係をもとに、今後は友達にも興味関心をもち、関わりを楽しむことができるように意識していきたい。



## 1歳児 <



## 1歳9か月頃~2歳頃 >

## いやいや!あそびたい!!

### ~受け止めてもらえた心地よさを感じる~

### くこれまでの経過>

1歳月12名(進級月3名、4月からの新入児9名)のクラスで、担任は2名である。子どもたちは、保育者との関係も深まる中で、だんだん自分の思いを出せるようになってきた。園庭では手押し車を押して探索したり、砂遊びを楽しんだりしている。また、異年齢児との関わりを喜ぶ姿が見られるようになってきた。

保育者は表情や言葉、しぐさから、子どもたちの要求や欲求をしっかり読み取り、受け止めるように 心がけている。(A児1歳9か月 B児1歳10か月)

### <本活動のねらい>

- ・自分の思いや要求を安心して言葉や表情で表し、受け止めてもらえた心地よさを感じる。
- ・友達に関心をもち、一緒に過ごす楽しさを感じる。

### <本活動での教育的意図>

- ・指さしや身ぶり、片言で伝えようとしていることを受け止めてもらい、心地よさを感じ、伝えるということや、言葉を使う楽しさが感じられるようにする。
- ・友達に親しみがもてるように言葉がけや仲立ちをすることで、一緒に過ごす楽しさが感じられるようにする。

#### 

視点 <u>子どもに育てたいこと</u> 教育的意図をもった働きかけ

### 〇園庭で好きな遊びを楽しむ。<br/>

- A 児砂場で4歳児にカップに砂を入れてもらって遊んでいる。
- B 児手押し車を押し、園庭の探索をしている。
  - 保 まもなく給食が運ばれてくるので、砂場で遊んでいる子 どもたちに、保育室に戻る時間であることを伝える。 それを聞いた子どもたちがテラスで靴を脱ぎ始める。
- 保園庭を散策しているB児のそばに行き、

「もうすぐ ごはんだよ」

「あっちで 友達が待ってるよ」と声をかける。

- B 児テラスで友達が待っているのに気が付くと「行く」と言って、手押し車を置き、友達の所に歩いて行く。
- A 児砂場でスコップとコップを持ち、4歳児に砂のプリンを たくさん作ってもらっている。
- 保「プリンいっぱいできたね」と一緒に食べる真似をする。

教育的意図をもった働きかけ

- 一人ひとりが自分の好きな遊びを 見つけ、じっくり楽しめる環境を整 えることで、<u>やってみたい気持ちが</u> 高まるようにする。
- 知・体安全に配慮して、<u>探索活動や遊びなどが十分楽しめる</u>ように環境を整える。
- <u>徳友達のことを意識したり、気にかけたりできる</u>ように、言葉をかける。

「あ〜おいしかった。ごちそうさまでした。」 「さあて、もうすぐごはんがくるから、お部屋に帰ろうか?」と声をかける。

A 児「いや!いやいや!」と言って泣く。

言葉による伝え合い等

- 保 「Aちゃんまだ遊びたかったの?」
- A 児 「(あそび) たい!」と言ってコップを持って保育者を見る
  - 子部屋に戻り始める。
- 保 「遊びたいね」「でも友達は部屋に行ったよ。給食食べるのかな?」「Aちゃんはどうする?」
- A 児保育者の話をじっと聞いていたが、テラスを見つめ、友達がいないのが分かると、「行く」とつぶやいた。そして 一緒に遊んでいた 4 歳児に「はい!」とスコップとコップを渡し、急いでテラスに駆けて行った。

道徳性・規範意識の芽生え等

- 保 A児を追いかけながら、「一緒に帰ろうか?」と声をかける。
- A 児友達が見えない事に少し戸惑っているようで「どこ?」「いない」と探している。
- 保 「<u>大丈夫! みんなお部屋で待ってくれてるよ。一緒に行</u> こう!」
- A 児「うん」と嬉しそうに追いかけ始める。部屋に戻りかけるとすぐに友達の姿が見える。
- 保「よかったね。お友達が見えたね」
- A 児「おーい」と友達に声をかける。
  - 子 A児の声が聞こえると友達も「おーい」と返事をして笑っている。

- 知指さしや身ぶり・片言で言おうとしていることを受け止め、言葉にして返すことで、子どもが気持ちを伝える喜びや言葉を使う楽しさを感じられるようにする。

#### 【考察】

・新入児については、入園してしばらくは新しい環境のため落ち着かない状況である。そこで保育者ができるだけ一人ひとりの生活リズムやペースを把握し、個々に応じた関わり方を心がけることで、子どもとの関係が深まってきた。安心した環境の中で、自分の思いを出し、受け止めてもらった経験は、自己肯定感につながり、また自分の気持ちを表出しようとする意欲につながっていると考えられる。

### (言葉による伝え合い、豊かな感性と表現等)

・この時期になると、周りの友達にも関心をもち、同じように楽しもうとするので、友達のことや今の 周りの状況を伝えていくことで、子どもなりの状況判断ができ、気持ちの切り替えができていくと考 える。 (道徳性・規範意識の芽生え等)

### 今後に向けて

・子どもが気持ちを表出したときに、保育者はできるだけ子どもの思いを受け止めることで、子どもは満足感を味わい、いずれは我慢することや相手の気持ちに気付くことなどにつながっていくだろうと考える。

# 1歳児 < 知

## 1歳9か月頃~2歳頃 >

## カレーライスおいしい!

### ~保育者が仲立ちとなり簡単なやりとりを楽しむ~

### くこれまでの経過>

1歳児6名のクラスで担任は1名である。これまで自分の要求や気持ちをたくさん出して欲しいと思い、子どものしぐさや表情をしっかり把握し、代弁したり、共感したりするなど受け止めることを大切にしてきた。関係ができてくると子どもたちが思いを出すようになったので、できるだけ1対1で気持ちをしっかりと受け止めるようにするとともに、言葉での伝え方を知らせてきた。

また、自分の好きな遊びをしながらも、他の子どもの遊んでいる様子が気になり、少し遊んでは次の遊びをしたり、部屋を歩きまわったりという姿が見られ、同じように他の子どもも落ち着きがなくなることがあったので、遊びをじっくり楽しめるように、保育者と1対1で向かい合い、集中して遊べるような環境を整えながら、一緒に遊んで満足感を得られるようにしてきた。

### <本活動のねらい>

- ・保育者と安定した関係の中で好きな遊びを楽しむ。
- ・遊びの中で簡単なやりとりをしたり、表情やしぐさで自分の思いを伝えたりしようとする。

### <本活動での教育的意図>

- ・好きな遊びを、安心できる人と安定した環境で楽しむことで、保育者と楽しい気持ちを共感し、遊び たいという気持ちが高まるようにする。
- ・コーナーを作り、子どもが興味のある玩具を用意することで、子どもがしたい遊びを選択し、落ち着いて楽しめるようにするとともに、子どもの言葉や表現を丁寧に受け止めることで自分の気持ちを伝えようとする気持ちを育む。

子どもと保育者の姿 保 - 保育者 子 - 子ども 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	視点 <u>子どもに育てたいこと</u> 教育的意図をもった働きかけ
<ul> <li>○保育者の周りに集まって絵本『ぐるぐるカレー』を見る。</li> <li>A児は絵本を見たくない様子である。</li> <li>保」「どうする?一緒に絵本見る?」</li> <li>A児「いや」</li> <li>B児「ここあいてるで」</li> <li>保」「あいてるって言ってくれてるけどどうする?」</li> <li>A児「いや」</li> <li>保」「そっか。じゃあ読むからそこで聞いててね」と言葉をかけながら絵本を読み進める。最後のカレーライスのページになると</li> </ul>	個子どもの思いを受け止めること で、 <u>安心して思いを出せる</u> ようにす る。
保 「どうする?食べてみる? <u>熱いかもしれないから気を付けてね</u> 」と言いながら、子どもたちにページを見せると、順に子どもたちが食べる真似をする。  B 児 「おいしい」  保 「おいしいね」	知絵本のカレーライスを食べる真似をするなど、イメージしやすいようにし、 <u>つもり遊びを楽しめる</u> ようにする。

- C 児「あつくない」
- 保 「あつくない?よかった」
- B 児「スプーンで」
  - 保 「スプーンで食べるの?どうぞ」
- 保子どもの言葉に対応しながら、見立てつもり遊びを 進める。A児はその様子をじっと見ている。
- 保 「Aちゃんもカレーライスいる?」
- A 児「いらん」
- 保 「Aちゃんいらないんだって。どうしようか。Aちゃん にカレーライス持っていってあげる?」
- A 児持ってきた子どもたちの方をチラッと見たが、また後ろに 向きなおす。
- A 児「いらん」
- 保 「<u>やっぱりいらないんだって。じゃあ先生がもらっとく</u> <u>ね</u>」 カレーライスを食べる真似をする。 「Aちゃんのカレーライス、ここに置いておくね」
- A 児少し間をおいてから、保育者が置いておいたつもりのカ レーライスを食べる真似をする。
- | 保 | 「よかった。おいしいね」とA児に語りかける。 「先生まだお腹空いているから、<u>今度はみんなでおいし</u> いごはんいっぱい作ろうか」
- 〇子どもたちはままごと遊びを始める。
  - 保 「何作る?先生おなかすいたな」と全体に語りかける。
- B 児「ハンバーグ作る」
- C 児「カレー作る」
- 自立心、言葉による伝え合い等
- A 児ままごとコーナーのついたてに隠れながら、ジュースを 入れたり、ご飯を作ったりしている。
- 子「いただきます」みんなでごはんを食べる。

- 個A児の気持ちを受け止め、伝える とともに他の子どもたちの気持ち も受け止める。
- 知おいしかった気持ちを受け止め、 次の遊びをやってみようという意 欲につながるように誘いかける。
- 知子どもからの発言を引き出せるよう う応答的に関わり、<u>自分の思いを伝</u> えられるようにする。

### 【考察】

- ・これまで丁寧な関わりを積み重ねたことにより、信頼できる保育者のもと、好きな遊びを楽しむ姿が見られたが、ままごと遊び以外の玩具の位置が遠く、カーテンがかかっているなど、子どもに見えにくかった。子どもが自分で好きな遊びを見つけ、満足いくまで十分楽しめるように環境を整えていく必要があると考える。 (健康な心と体、自立心等)
- ・月齢が高いため、自分の気持ちを言葉で表現することができる子どもたちだが、まだまだ受け止めて 欲しいという気持ちが多く見られる。繰り返し共感し、自分から伝えようとする気持ちを育むように する。 (言葉による伝え合い、豊かな感性と表現等)

### 今後に向けて

・保育者との楽しい遊びや触れ合いが、子どもが活発に遊ぶきっかけとなり、作ってみたいという気持ちの芽生え、ままごと遊びにつながっていくと思われる。また、友達に少しずつ興味をもち始めているので、今後は保育者との関係を基盤に、子ども同士の関係を広げていけるような働きかけを意識していく。

## 1歳児 < 体



## 1歳9か月頃~2歳頃 >

## からだをうごかすってたのしいね

### ~保育者と一緒に体を動かして遊ぶ~

### くこれまでの経過>

動物が大好きな子どもたちは、絵本に動物が出てくると喜び、保育者が動物の歌を歌ったり動物の動きをしたりすると、保育者と同じように体を動かして楽しんでいる。また手、指を使う遊びや、布を使って体全体を動かし、バランス感覚を養うような遊びも楽しんでいる。

所庭に出ると、年長児が靴を履かせてくれ、2人乗りの三輪車の後ろに乗せて遊んでくれるなど、異年齢の友だちとの関わりも少しずつ増えてきた。運動会では、2歳児が取り組んだ「電車ごっこ」の真似をして、年長児が1歳児を乗せて遊んでくれたことから、ますます関わりが深まってきた。

### <本活動のねらい>

- ・保育者と一緒に体を動かすことを楽しむ。
- ・保育者や友達(異年齢児も含む)と一緒に触れ合い、関わって遊ぶことを楽しむ。

### <本活動での教育的意図>

- ・音楽に合わせたり、歩いたり、跳んだり、バランスを取ったりなど、いろいろな動きを経験することで、保育者や友達と一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
- ・安心できる環境のもと、好きな保育者や友達、異年齢児と関われるような機会を見つけ、楽しめるようにする。

視点 子どもに育てたいこと 教育的意図をもった働きかけ

O朝のおやつ後、絵本を読み、好きな遊びを楽しんでいる。

- 保 「あ!音楽聞こえてきたよ。体操しようか?」
- 子「うん」「する」
- 子 見ていた本や玩具を片付け始める子どももいれば、周り の様子を気にして、あまり動かず、保育者の顔をじっと 見ている子どももいる。
- <u>子</u>次第に表情もほぐれ、保育者の方を見て嬉しそうにしながら、音楽に合わせ体操を始める。
- 保|「楽しかったね。」
- 子|「ゴリラした」「もっとしたい」
- 保 「ほんと、おもしろかったね、また今度しようね」 「さぁ次は、お外に行って<u>ゆりぐみさん(5歳児)と</u> 緒に遊ぼうね。レッツゴー!」
- 子 「ゴー」と、一緒に手を上げている。
- 保、先頭となり、歌を歌いながら外に出る。
- <u>子</u>自分で靴を取りに行き、一人で履いたり、履かせてもらったりする。
- 5歳児電車の先頭に乗って、誘いに来る。
- 保 「<u>ゆりぐみさんが誘いに来てくれたよ</u>、一緒に電車に乗ってみようか?」

- M 一緒に体を動かすことで、子ども がリラックスできるようにし、<u>体を</u> 動かす楽しさを味わえるようにす る。
- <u>徳落ち着いて過ごせる</u>ように、一人 ひとり丁寧に関わるようにする。

<u>徳</u>年長児と一緒に遊ぶことに<u>期待を</u> <u>持つ</u>ことができるよう先に知らせ ておく。



体・徳遊びに興味をもち、安心感をもって遊べるように、誘いかける。

- 子 「いくー」「のる」それぞれ好きな電車を選び乗り込み、 出発して行く。
- 保「いってらっしゃい」と見送る。
- 子 5歳児のバスに乗り込むと、うれしそうに「ばいばい〜」 と手を振っている。
- 〇保育者は所庭のポイントになる木や柱に、動物(ウサギ、キリン、ゾウ)の絵を貼り、駅に見立てる。
- 保 バスに乗っていないA児に「<u>電車に乗ってみる?あっち</u> <u>にウサギ駅あるよ。行ってみようか?」と声をかけてみ</u> る。
- A 児「う・・ん」と言いながら、保育者の方を見て笑っているので、保育者がもう一度誘いかけると一緒に電車に乗って、ウサギ駅に行く。
- 保 「ウサギ駅ついたね。ウサギさんいるかな?」
- ○他の子どもたちと5歳児がウサギ駅の看板を見ている。
- 保 「ウサギさんみたいに、ピョンピョン跳んでみる?」
- A 児他児と一緒に、保育者の真似をして跳んでいる。
- 保 「ピョンピョンおもしろいね」
- A 児「うん」と、うれしそうに笑う。
- ○タイミングよく、5歳児の電車が誘いに来る。
- 5歳児「キリン駅行きでーす」
  - 保 「A ちゃん乗ってみる?」
- A 児「うん」うれしそうに電車に乗って、手を振っていく。
- 保「ばいばい」
- ○5歳児とA児はキリン駅で降り、他児と一緒にキリンの歌を 歌いながら一緒に歩いている。
- | 保 | 「みんな楽しかったね〜」
  「いっぱい遊んだから、そろそろお部屋に戻って、今度は動物の絵本みよう〜!」

個子どもの気持ちを受け止め、誘いかけることで、<u>やってみようという</u> 気持ちがもてるようにする。

一緒に体を動かすことで、<u>楽しい</u>気持ちを共有できるようにする。

一個タイミングよく子どもの気持ちを 受け止め誘うことで、「できた」と いう嬉しさを味わえるようにす る。

### 【考察】

・寒い時期にしっかりと体を動かして、遊ぶことができるように、大好きな動物の動きを真似る遊びを 取り入れたが、広い所庭では子どもたちが表現遊びを楽しむようなイメージがもてず、場所設定や空 間、さらに環境構成の工夫が必要であった。また、保育者や友達が楽しそうに遊んでいると、それを 真似したくなり、それが体を動かして遊ぶ楽しい活動につながった。

### (健康な心と体、自立心、思考力の芽生え等)

・多くの子どもたちが5歳児と一緒に遊びを楽しんでいたが、中には嫌がり一人で遊ぼうとする姿があった。まだまだ1歳児という年齢では、保育者と子どもが、まず信頼関係を深め、安定した関係を築いていくことが大事で、それを基盤に、友達や異年齢児にも関係を広げていけるようにしていきたい。

### (健康な心と体、社会生活との関わり等)

### 今後に向けて

・この時期になると、子どもたちは生活の流れが分かり、自分でやってみよう、またしようとする気持ちが芽生えてくるので、そのタイミングを逃さず、子どもが主体的に動けるような工夫や、できた時に具体的・肯定的な言葉をかけ、いろいろなことに興味、関心を広げていきたい。